



"Artificial and Nature"
Yume Yamada, 2019 NIS Graduate

つながりを広げよう2019

日本社会の多様性とエンパワメント

Criando Conexões 2019

Empoderamento pela Diversidade Japão

Creating Connections 2019

Empowerment for Diverse Japan

June 8 & 9

NAGOYA INTERNATIONAL SCHOOL

Organized by the Connections Forum

Funding for Creating Connections 2019 has been provided by grants from Aichi Prefectural University and Japan Society for the Promotion of Science

Aichi Prefectural University
President's Special Faculty Research Grant
愛知県立大学
学長特別教員研究

Aichi Prefectural University Cultural
Symbiosis Research Institute
愛知県立大学
多文化共生研究所

Aichi Prefectural University
Regional Union Center
愛知県立大学
地域連携センター

JSPS KAKENHI 16K13556

つながりを広げよう 2019:
日本社会の多様性とエンパワメント
2019年6月8日と9日
会場: 名古屋国際学園
主催: コネクションフォーラム



8:15 – 9:00	開場 (受付でネームカード とコンファレンスハンドブックをお受け取り下さい。お茶&お菓子をご用意しております。)
9:00 – 9:20	ようこそ マシュー・パール、ルシ・ウィリス 名古屋国際学園 アンドレア・カールソン、つながりを広げよう 2019 実行委員長、愛知県立大学
9:20 – 9:35	開会の挨拶 高橋 脩 精神科医 豊田市福祉事業団 理事長
9:35 – 10:05	基調講演 多文化に飛び込もう！ 牧野 佳奈子 一般社団法人 DiVE.tv 代表理事
10:15 – 12:05	分科会 1
12:05 – 12:50	ランチ
12:50 – 13:50	パネルディスカッション: LGBTQIA コミュニティへのエンパワメント
14:00 – 15:50	分科会 2
16:00 – 17:00	分科会 3
17:00	閉会 (終了後、夕食)

Session 1: 10:15 – 12:05

ROOM -A

*** 10:15-10:45**
外国人の虐待と DV ケースから考える社会課題
神田すみれ
多文化ソーシャルワーカー

*** 10:50-11:30**
クリエイティブなつながりを築く：日本の多文化青年を支援するための強みに基づくアプローチ
フランク・オカンボス
ソーシャルワーカー、千葉県木更津市ファミリーセンタービオラ

*** 11:35-12:05**
情緒的ウェルビーイングの支援者達
アンドレア・カールソン
愛知県立大学 准教授
ルシ・ウィリス
名古屋国際学園
全校のウェルビーイング担当校長

ROOM -B

*** 10:15-10:45**
女子生徒における自閉症スペクトラム障がい～親の視点
レイチ・トーマス
名古屋国際学園 MYP ドラマ / DP シアター 教師

*** 10:50-11:10**
自閉症の見直し
成瀬 毅, NPO 法人アップル・シード

*** 11:10-11:30**
発達障害児の自立と社会参加に向けた取り組み
須場 康貴, NPO 法人 5-CHA

*** 11:35-12:05**
実行機能：それは何であり、どのようにその発達を支援するのか
サラ・パールツ
名古屋国際学園 生徒支援コーディネーター

ROOM -C

*** 10:15-11:00**
眠るために起きる
ジョン・ポール・マッカーシー
名古屋国際学園 保健体育 主任

*** 11:00-11:30**
知覚されたストレスと睡眠の質との関係
デボラ・ブロードビー、南山大学
ジョシュ・ブルノッテ、愛知県立大学

*** 11:35-12:05**
日常的な食品選択と長期的な情緒的ウェルビーイング
マリア・ヴァシエヴァ博士
名古屋大学 理学部 生命理学科 准教授

LIBRARY

*** 10:15-11:00**
安全な空間の創造
レイド・ピアス
名古屋国際学園 中等部 EAL 教師

*** 11:00-11:30**
教室でのカミングアウト：自己開示の力
ヨシ・グロウト
京都産業大学 講師

*** 11:35-12:05**
クローゼットの中の教室：LGBTQ の教師や生徒にとってどのように「良くなった」のか
ライアン・アンドリュウ
名古屋国際学園 英語、文学、知の理論 教師

Session 2: 14:00 – 15:50

ROOM -A

*** 14:00-15:00**
トラウマ：影響、予防、そして回復
キム・ハムフリーズ
名古屋国際学園 全校カウンセラー
ジリアン・ミコルボルロウ-スギヤマ カナダ公認カウンセラー(名古屋/中部地域担当)

*** 15:05-15:35**
日本社会におけるひきこもり
宇都宮 みのり
愛知県立大学 教育福祉学部 教授

*** 15:35-15:50**
まとめグループディスカッション
ディスカッションリーダー：
アンドレア カールソン 愛知県立大学 准教授

ROOM -B

*** 14:00-15:00**
ASD（自閉症スペクトラム症候群）：社会的な世界を広げる
ジェニー・オグレイディ
独立言語療法士

*** 15:05-15:50**
臨床神経心理学的評価の性質と有用性についての議論
ジョー・エンライト
博士、臨床心理士/神経心理学者、愛知県にて独立開業、TELL JAPAN 契約心理臨床家

ROOM -C

*** 14:00-14:30**
移民のこどもたち
佐伯 マルシオ
写真の先生(アツテック)、元校長先生(NPO 法人エスコラサンパウロ), 理事著(一般社団法人 DiVE.tv 代表理事)

*** 14:40-15:10**
クロスカルチュラルな背景を持つ「元こども」の経験
金 千佳、医療通訳

*** 15:20-15:50**
外国にルーツをもつ子どもに対する学習支援の現状と課題
崎 ミチ・アン
同志社女子大学 表象文化学部 英語英文学科 助教

LIBRARY

*** 14:00-14:30**
カミングアウト～親と子の立場から
NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会

*** 14:40-15:10**
LGBT かもしれない
りいな
名古屋あおぞら部

*** 15:20-15:50**
大学レベルでの LGBTQIA コミュニティの支援
ルイーザ・ヘインズ
名古屋市立大学 高等教育院

Session 3: 16:00 – 17:00

ROOM-A

*** 16:00-17:00**

**若者のデバイス利用管理を支援する
リル・ウィルス**

神戸にて独立開業する英国の心理療法士、大阪 YMCA インターナショナルスクール 非常勤スクールカウンセラー

ROOM-B

*** 16:00-17:00**

**自閉スペクトラム症とコミュニケーションと人間関係
冠地情**

ワークショップファシリテーター、講演会講師、コラムニスト

ROOM-C

*** 16:00-17:00**

**民族の多様性、多文化意識、そして地域社会
構築の物語：対話型ディスカッション**

崎 ミチ・アン
同志社女子大学 表象文化学部 英語英文学科
助教

LIBRARY

*** 16:00-17:00**

セクシュアリティ教育へのセックスポジティブな取り組み

ナゴヤ・アクション・ヒーローズ
名古屋国際学園
助教



基調講演

多文化に飛び込もう！ (9:35 -10:05) 牧野 佳奈子 一般社団法人 DiVE.tv 代表理事

たとえば真っ青な色水の中に赤いインクを垂らすのは勇気があります。でもカラフルな色水ならチャレンジしやすいはず。誰もが自己解放しやすい社会は、カラフルであるべきです。同じ色の人なんて本来一人もいないのだから。



分科会 1 : Room A: 10:15 – 12:05

1-A-1) 外国人の虐待と DV ケースから考える社会課題 (10:15 – 10:45) 神田すみれ 多文化ソーシャルワーカー

このセッションでは、日本に暮らす外国人における虐待と家庭内暴力の事例を紹介し、支援を受ける上で障壁となる社会課題について議論をします。虐待、家庭内暴力の被害者が受けられる支援についても情報を共有します。

1-A-2) クリエイティブなつながりを築く：日本の多文化青年を支援するための強みに基づくアプローチ (10:50 – 11:30) フランク・オカンボス カウンセラー, ソーシャルワーカー, 千葉県木更津市

ファミリーセンタービオラ

Family Center Viola は、児童福祉法に基づいて設立された日本の 120 の家族支援センターのひとつですが、コミュニティレベルで多文化家族を支援するための専門的スキルを持っているという明確な特徴を持っています。今回の発表では、到着したばかりの移民青年を支援するための私たちの経験を共有し、それによって私たち自身のコミュニティから始めて、彼らとその家族をどのように助けることができるかについて積極的な議論と行動のプロセスを始めます。

1-A-3) 精神的幸福のための仲間 (11:35 – 12:05) アンドレア・カールソン, 愛知県立大学 准教授 **ルシ・ウィリス,** 名古屋国際学園 全校のウェルビーイング担当校長

このディスカッショングループでは、日本の多文化コミュニティのためのメンタルヘルスサポートに関連する問題について説明します。

- 多文化の個人や家族が最も必要としている感情的支援の種類は何ですか？
- どの問題に関して助けを見つけるのが最も難しいのか？
- 地域社会およびそれ以外の地域で利用可能な資源？
- 私たちはどのようにして私たちの地域社会の他の人々と仲間になれますか？



分科会 1 Room B: 10:15 – 12:05

1-B-1) 女子生徒における自閉症スペクトラム障がい - 親の視点 (10:15 – 10:45) レイチ・トーマス 名古屋国際学園 MYP ドラマ / DP シアター 教師

出身国であるイギリスの幅広い学校や様々な国々のインターナショナルスクールで、中等学校の教師として 20 年教員をして来た私は、娘の自尊感情の低さや深刻なメンタルヘルスの問題について説明することを迷いました。ソーシャルメディアの投稿に導かれて女子生徒の自閉症スペクトラム障がい (ASD) について調べ、最近 15 歳で診断を受けたことで、以前は隠れて分からなかった彼女の苦闘と可能性を、ようやく理解できるようになりました。

1-B-2) 自閉症の見直し (10:50 – 11:10) 成瀬 毅 NPO 法人アップル・シード

ASD や ADHD 等のいわゆる発達障がいは、DSM や ICD の改定にも関わらず、まるで ASD や ADHD が「普通」あるいは「多数派」グループから逸脱しているかのように、未だにネガティブな見方をされている。大多数の人々に受け入れられることは難しいかもしれないが、自閉症に関するいくつかの見方を示し、その良い面を議論したい。神経定型なマジョリティと、神経非定型なマイノリティとの相互理解と成長に向けて、ハイブリッドな見方、考え方、生き方を目指します。

1-B-3) 発達障害児の自立と社会参加に向けた取り組み (11:10 – 11:30) 康貴 須場 NPO 法人 5-CHA

NPO 法人 5-CHA (ごっちゃん) は、発達障害児--特に公的支援を享受しづらいグレーゾーン児の自立と社会参加を促す活動を安城市で行っている。本発表では当団体の取組内容と成果及び今後の展望等を報告する。

1-B-4) エグゼクティブ・ファンクション (実行機能) : それは何であり、どのようにその発達を支援するのか (11:35 – 12:05) サラ・パールツ 名古屋国際学園 生徒支援コーディネーター

このセッションでは、エグゼクティブ・ファンクションと呼ばれるものを構成するスキルと、学生や子ども達にそれらのスキルを無意識に使わせる方法についてお話しします。その後、エグゼクティブ・ファンクション・スキルをより深く学び、適応し、強化する方法について対話します。



分科会 1 Room C: 10:15 – 12:05

1-C-1) 眠るために起きる (10:15 – 11:00) ジョン・ポール・マッカーシー 名古屋国際学園 保健体育 主任

このワークショップでは最初に、睡眠サイクル、サーカディアンリズム、微睡眠、ブルーライト、睡眠不足といった、睡眠の基本から始めます。その後、ストレス、記憶力、創造性、運動能力、体重増加、外観に関して、なぜ睡眠が重要なのか、そして睡眠衛生を改善するためのアイデアをお伝えします。

1-C-2) 知覚されたストレスと睡眠の質との関係 (11:00 – 11:30) デボラ・ブロードビー, 南山大学 ジョシュ・ブルノッテ, 愛知県立大学

日本の多くの講師達は教室内で、学生達の睡眠不足に関する選択やストレス要因の結果である数々の課題に直面しています。日本の高等教育レベルの英語学習者の行動とつながりを調査するため、国際的に認知されているピッツバーグ睡眠質問票 (PSQI) と知覚されたストレス尺度 (PSS) を用いました。教室内外において、保護者や教育者、管理者がより健康に前向きな選択をどのように促進できるのかというアドバイスとともに、この研究結果について説明します。

1-C-2) 毎日の食事と長期的なこころの幸福 (11:35 – 12:05) マリア・ヴァシエヴァ博士 名古屋大学 理学部 生命理学科 准教授

私たちは自分の頭と体とは別に考えています - 感情的な問題は頭の観点からのみ扱われています。実際、体は脳に影響を与えます。腸は神経系やホルモン、そして腸内のマイクロフローラが主要な役割を果たします。この話では、腸がどのように脳に影響を与えるのか、そして腸の健康管理をすることでこころの幸福をどのように向上させることができるのかについての最新の発見を解説します。



分科会 1 Library: 10:15 – 12:05

1-L-1) 安全な空間の創造 (10:15 – 11:00) レイド・ピアス 名古屋国際学園 中等部 EAL (English as Additional Language, 不可言語としての英語) 教師

周縁化されたコミュニティの人々の苦闘と願望を調査することから始め、そのすべての構成員にとって安全な地域社会のためのフレームワークを構築すべく協働します。

1-L-2) 教室でカミングアウト：自己開示の力 (11:00 – 11:30) ヨシ・グロウト 京都産業大学 講師

このプレゼンテーションでは、私の個人的/職業的な分裂哲学が、1人の学生の勇気によってどのように変わったのかを説明します。(信頼、興味、LGBTQIAの増加 プラス 教室やキャンパスにおける可視性、コミュニティの創出に焦点を当てて) 自分の学生にカミングアウトするという私の決断と、ポジティブなノックオン効果の概要について考察します。

1-L-3) クローゼットの中の教室：LGBTQの教師や生徒にとってどのように「良くなった」のか？ (11:35 – 12:05) ライアン・アンドリュース 名古屋国際学園 英語、文学、知の理論 教師

LGBTQ コミュニティの社会的受容が広がるにつれて、多くの学校は「カミングアウトした」の個人として生きるための比較的限定的な場所であり続けています。このプレゼンテーションは、LGBTQである教師や生徒の観点から、当事者が学校で直面する課題について聞ける機会であり、どのように進展できるのかという研究について簡単にお伝えし、そして、日本の文化的コンテキストにおける影響を議論する機会を提供します。



分科会 2 Room A: 14:00 – 15:50

2-A-1) トラウマ：影響、予防、そして回復 (14:00 – 15:00) キム・ハムフリーズ、名古屋国際学園 全校カウンセラー ジリアン・ミコルボルロウ-スギヤマ、カナダ公認カウンセラー(名古屋/中部地域担当)

過去20年の間に、トラウマとそれがどのように人に影響を及ぼすのか、ということに関する私達の理解は急増しています。このすべての研究において、何が変わったのでしょうか？何がトラウマに含まれるのでしょうか？それは、退役軍人や悲惨な出来事の生存者の闘いに限られますか？トラウマはどのように人に影響を及ぼすのでしょうか？「すべてはあなたの頭の中にある！」という言葉に真実はあるのでしょうか？どうして人々は「ただ乗り越える」ことができないのでしょうか？もしそれがどこにでもある避けられないことならば、私達は、親あるいは教育者として、子ども達のレジリエンスを向上させ、自分や他者の回復を支援することができるのでしょうか。

2-A-2) 日本社会におけるひきこもり (15:05 – 15:35) 宇都宮 みのり

愛知県立大学 教育福祉学部 教授

ひきこもりはさまざまな要因によって社会的な参加の場がせばまり、就労や就学などの自宅以外での生活の場が長期にわたって失われている状態のことをいう。強いストレスを避けるためにひきこもることは特別な現象ではない。しかしひきこもりが長期化するとそこからの離脱が難しくなり深刻な生活困難に陥る。ひきこもりはこのような特徴を持つ、多様性をもったメンタルヘルスに関する問題である。本報告では、日本におけるひきこもりの現状と支援上の課題について討論したい。

2-A-3) まとめグループディスカッション (15:35 – 15:50) ディスカッションリーダー: アンドレア カールソン 愛知県立大学 准教授



分科会 2 Room B: 14:00 – 15:50

2-B-1) ASD (自閉症スペクトラム症候群)：社会的な世界を広げる (14:00 – 15:00) ジェニー・オグレイディ 独立言語療法士

ASDの子ども達は他者とつながることが苦手だと言われています。しかしながら、あまりにも頻繁に、治療は実際のコミュニケーションよりも、コンプライアンスとタスクの完了に焦点を当てています。このセッションでは、子ども達にとって最も大切な人々との有意義で刺激的な活動が、治療のゴールではなくスタート地点なのだということを実証します。それが子ども達の発達レベルや関心の範囲内において有効だということを理解しつつ、ご両親や先生方が注意力や交流力を養えるような、実用的な戦略もご紹介します。3歳～8歳の子どもを育てたり教えたりしている方々を対象としています。

2-B-2) 床神経心理学的評価の性質と有用性についての議論 (15:05 – 15:50) ジョー・エンライト 博士、臨床心理士/神経心理学者、愛知県にて独立開業、TELL JAPAN 契約心理臨床家

神経心理学的検査には、脳機能の様々な領域の完全性を評価するため、認知、能力、および行動の客観的な標準尺度を用います。この発表では、認知力の強さ、弱さ、欠損の識別支援、および精神医学的、発達の、学習的、医学的病状/障害の鑑別診断を支援する、臨床神経心理学者の役割と包括的な神経心理学的評価の性質と有用性について説明します。



分科会 2 Room C: 14:00 – 15:50

2-C-1) 移民の子ども (14:00 – 14:30) マルシオ・サイキ 写真の先生(アッテック)、元校長先生(NPO 法人エスコラサンパウロ), 理事著(一般社団法人 [DiVE.tv](#) 代表理事)

ブラジルでは、ブラジル人は私のことを日本人だと言っていました、ここ日本では、日本人は私のことをブラジル人だと言います。では私は誰なのでしょう？ 私は愛知県内のブラジル人学校で5年間ディレクターをしていました。普通の日本の学校に通う代わりに、様々な年齢のブラジル人の子ども達がこのような学校に通っています。なぜこのようなことが起こるのでしょうか？まず初めに、1990年以降のブラジル人の移民がどのように起こったのかを理解することが重要です。他にも考慮しておくべきことは、この移民が唯一の、人間関係の歴史において非常に稀な、両親や祖父母の祖国への移民だということです。

2-C-3) クロスカルチュラルな背景を持つ「元子ども」の経験 (14:40 – 15:10) 金千佳 医療通訳

日本にコリアンとして生まれ育ったことで、子どもの頃から差別されてきた経験があります。でも大学生になった頃、「私には差別された経験はない」と語っていた頃がありました。それは何故だったのでしょうか？私個人の子どもの頃とその後の経験を共有しながら、今まさに様々な差別に苦しんでいる子ども達や若者達には、そしてまた、自分自身の辛い経験に向き合うことなく「もういい大人なのだから」と方法をすことすら諦めてしまった「元子ども」のためにも、何が必要なかを考えます。

あなたには、

自分の本当の気持ちを吐露できる場所がありますか？



分科会 2 Library: 14:00 – 15:50

2-L-1) カミングアウト～親と子の立場から～ (14:00 – 14:30) NPO 法人 LGBT の家族と友人をつなぐ会

同性愛（レズビアン）の子を持つ母、性同一性障害（FTM）の子を持つ母、そして当事者である子供が、それぞれの立場からカミングアウトをする側と受ける側の心境、またカミングアウトの前後の心の変化を語ります。

LGBT かもしれない

2-L-2) LGBT かもしれない (14:40 – 15:10) りいな (Riina) 名古屋あおぞら部

名古屋における LGBT かもしれない若者の居場所作りと悩む若者たち(特に10代)に対して、周囲はどのようなサポートを行うことができるのか。名古屋にて若者の居場所作りを2年以上行っている経験からお話します。

2-L-3) 大学レベルでの LGBTQIA コミュニティの支援 (15:20 – 15:50) ルーズ・ヘインズ 名古屋市立大学 高等教育院

スペクトラムは、名古屋市立大学における LGBTQIA の学生達とその支持者のグループです。最初は2017年に、ランチタイムにジェンダーやセクシュアリティについて議論する、非公式なグループとして始まりました。メンバー達は、キャンパスにおいて教育活動も行って来ました。私達の大学では、変化が起きている。現在私達は、全ての学生、教員、職員を含めることに関しての、全学レベルの方針を立てています。日本の他大学では、教授陣は LGBTQIA の学生のニーズに関する課題への関心を高めようと努力しています。この短い講演では、これらのトピックについて議論し、参加者の皆さんに、大学に集う人々が学生/教員/職員の多様性への関心を高めるためにどのように大学がアプローチすべきかと、いう議論に関わることを促します。

2-C-4) 外国にルーツをもつ子どもに対する学習支援の現状と課題 (15:20 - 15:50) 崎 ミチ アン 同志社女子大学 表象文化学部 英語英文学科 助教

本発表は、近年、全国的に増加傾向にある外国にルーツをもつ子どもが直面している学習支援の現状と課題を明らかにし、考察するものを報告する。本研究では、関西のある都市の公立小学校に通う外国にルーツをもつ子どもとその家族、京都市内の教育関係者、学習支援を行う組織・団体（民間含む）等に聞き取り調査を行い、彼らの学習環境の現状、傾向と課題を発表する。



分科会 3 Room A: 16:00 - 17:00

3-A-1) 若者が電子デバイスの使用を管理できるようにする (16:00 - 17:00) リル・ウィルス 神戸にて独立開業する英国の心理療法士、大阪 YMCA インターナショナルスクール、非常勤スクールカウンセラー

デバイスを置くのが難しいのはなぜですか。ソーシャルメディア、ストリーミングサイト、ゲームなどの魅力をどうやって理解できるでしょうか。これら技術と精神的健康問題、やる気の欠如、そして学業上の失敗との間の関係は何か？ 青少年（そして私たち自身）に、乱用しないためのスキルを与えるために私たちは何ができるでしょうか。この議論には明確な答えはありませんが、私たちの生活の中でテクノロジーが提起する質問にあなたが違った見方をするのに役立つかもしれません。



分科会 3 Room B: 16:00 - 17:00

3-B-1) 自閉スペクトラム症とコミュニケーションと人間関係 (16:00 - 17:00) 冠地情 ワークショップファシリテーター、講演会講師、コラムニスト

参加者全員で、イイトコサガシ・キーワードをたくさん羅列し、皆でプレゼント交換しあうワークショップ。ASD 当事者がポジティブな感情表現に馴染んでいくためのワークショップ。



分科会 3 Room C: 16:00 - 17:00

3-C-1) 民族の多様性、多文化意識、そして地域社会構築の物語：対話型ディスカッション ディスカッションリーダー：崎 ミチ アン 同志社女子大学 表象文化学部 英語英文学科 助教



分科会 3 Library: 16:00 - 17:00

3-L-1) セクシュアリティ教育へのセックスポジティブな取組み (16:00 - 17:00) 名古屋アクションヒーローズ

名古屋アクションヒーローズが、名古屋国際学園中等部の生徒達（11～14 歳）とともに友情や恋愛関係について行ったワークショップを、ファシリテートした経験を共有します。これらの話し合いをリードすることで、メンバー達は、相互尊重、愛そして思いやりをその拠り所として、包括的な性教育プログラムの基礎を築いています。

つながりを広げよう 2019:
日本社会の多様性とエンパワメント
2019年6月8日と9日
会場: 名古屋国際学園
主催: コネクションフォーラム

www.multiculturaljapan.com



日曜日

- 8:15 – 8:50 開場 (受付でネームカード とコンファレンスハンドブックをお受け取り下さい。お茶&お菓子をご用意しております。)
- 9:00 – 10:00 家接 哲次, 名古屋経済大学 教授
- 「日本での自己エンパワメント」**
10:10 – 11:10 アヴリル ハイ 松井, 名古屋市立大学 講師
- 「語りはかなり、とそのワケ」**
11:20 – 12:20 シェリル 大久保, アート・セラピスト, MA, ATR-BC, ハース スタジオ 土浦市, 筑波大学 非常勤講師
- 共感: 忘れられたコミュニケーションスキルの基礎**
11:20 – 12:20 Jon Dujmovich, Keio University
ジョン・ドウモビッチ, 慶応義塾大学
- クロスカルチュラルな会話: 恥と相互支援方法についてのディスカッション**
12:30 – 13:30 サラ・パールツ, 名古屋国際学園 生徒支援コーディネーター



Room: Commons 9:00 – 10:00

メンタルヘルスのためのマインドフルネス

人間生活科学部 教授 家接 哲次

本研修では、うつ病の再発予防効果が高いとされているマインドフルネス認知療法を初めての人にもわかりやすく解説します。また、実際に医療現場で実施されている「瞑想」も体験して頂きます。



Room: Commons 10:15 – 11:15

日本におけるセルフエンパワメント **アヴリル ヘイ 松井** 名古屋市立大学 講師

人生において、私達はどのように前進すれば良いのでしょうか？

どうすれば目標を達成することができるのでしょうか？

卒業する時、子ども達が巣立つ時、あるいは定年退職する時、私達はどのようになっていることを目指せば良いのでしょうか？これらの問いは、時々考えることはあるかもしれないけれど、その一つ一つを十分に時間を取って本当にじっくり考えることは、あまりないのではないのでしょうか。忙し過ぎたり、あるいはこれらの問いに答えることができず、途方に暮れたり、無能な人間だと感じてしまいませんか？このワークショップでは、これらの大きな問いを一緒に考える時間を持ち、コミュニティとしてお互いの力を引き出し合います。人生の重要な領域について、どのように変えたり改善したりしたいのかを考え、それを実現するための対応可能なステップを作ります。このワークショップが終わる頃までには、エンパワメントというのは、変わりたいという思いから簡単に始まる小さな一貫性のあるステップの連続なのだということが分かるでしょう。



Room A 11:30 – 12:30

つながること ~語りによるエンパワメント~ **シェリル 大久保** アート・セラピスト, MA, ATR-BC, ハース スタジオ 土浦市, 筑波大学 非常勤講師

このワークショップでは、メンバーはまず語りがいかに私達の人生に力と英知をもたらすのか、について簡単に学びます。それは、いつ、この地球上のどこで生きているかに関わらず、この世にあることへの自信を与えてくれるものです。その後、メンバーはそれぞれの五感と最大限の想像力を駆使して、積極的にこのワークショップに参加されるでしょう。二人組での簡単なウォームアップの後、四人のグループに分かれて創造的な体験を共有します。各メンバーは、知らない人と本当につながるということがどういうことを学び、また彼ら自身の、気まぐれなたった一つの物語を持ち帰ることにもなるでしょう。結果には驚かされますよ！



Room: Commons 11:30 – 12:30

共感：忘れられたコミュニケーションスキルの基礎 **ジョン ドウモビッチ** 慶応義塾大学

このワークショップでは、あらゆるコミュニケーションにおける共感、特に異文化間の状況における文化的共感の重要性について検討します。今や共感、多くの人々からグローバルリーダーにとつての極めて重要なスキルであると見られています。私達の日常生活の中では、このスキルを「訓練」する機会がまだほとんど見当たりません。共感が継続的に開発され育成される必要があるスキルとして見られているならば、成長とスキル開発を促進するテクニックは、生活のあらゆる分野におけるコミュニケーションと人間関係を改善することにつながるでしょう。このワークショップの参加者は、日常のやり取りにすぐ取り入れることができる様々な方法や簡単な演習を通して、文化的共感を育てる方法を学びます。



Room: Commons 12:30 – 13:30

クロスカルチュラルな会話：恥と相互支援方法についてのディスカッション **ディスカッションリーダー：サラ・パールツ** 名古屋国際学園 生徒支援コーディネーター